

スポーツについて思うこと



われわれの学生時代には、球技と言え、野球、庭球、サッカー、ラグビー位しかなく、今は、球技の種類も多くなり、学生諸君は、自分の身体と好みにあつた、いろいろの球技を撰取できるので、その意味でも、今の学生諸君は恵まれてゐると言える。

ハンドボールは、どの国で初められたものであるか知らなれど、運動場も多く、ルールも極めて合理的に、又面白く定められていて、プレイヤーの身体の高さや、運動神経が錬磨されるようになってゐる、高度のスポーツだと私は思う。私が高津に赴住してまもなく、グロウインドで練習を見てゐると、今中先生が、うちのハンドボール部は、勉強もよくできる子が多いですよ。と誇らしげに言つたことが記憶に残つてゐる。

勉強や読書をするのが、青年の特権であることに、スポーツをやつて、身心を鍛えておかないような人は、社会に出て、きびしい仕事には耐え難いことを、われわれの経験が教えてゐる。

今回、ハンドボール部誌が創刊されるのであるが、これを機として、先輩後輩の連絡、協力が強化され、益々よき伝統を樹立し、部員が、科学的で、且まぎし練習を上げよう、先輩並に部員諸君にお願いしてゐたい。

山川 信夫